



# 楽々亭通信

第 33 号  
令和5年7月1日号

発行：NPO法人没イチの会・京都

## 6月の楽々亭を 開催いたしました



本願寺派布教使

安堂芳雅

### ■お葬儀について

こんにちは、安堂です。  
皆さんは、佐々木閑先生を  
ご存知でしょうか。

ご実家は真宗のお寺です  
が、京都大学の工学部を卒  
業された後、学位は仏教学  
で取得され、現在は禅宗の  
花園大学の教授という、ユ  
ニークな経歴の先生です。

先日、講義を受けるご縁  
があり、その中の『お釈迦  
さまのお葬式』のお話は、  
とても面白いものでした  
ので、ご紹介します。

### ■お釈迦さまのご遺言

最近「お別れ会」とい  
うような、宗教色を抜いた

お葬儀もあります。  
しかしまだ大半は、仏式、  
神式、キリスト教式で、そ  
の中でも仏式がいちばん  
多いということですが。

ここでいう「仏式のお葬  
式」とは、仏さまの教え(仏  
教)に則った形式で執り行  
われる葬儀です。

では、その仏教を開かれ  
たお釈迦さまご自身は、ど  
のようなお葬式を望まれ  
たのでしょうか。

お釈迦さまは、80歳でお  
亡くなり(涅槃に入られ  
た)になりました。病氣  
になり、やがて涅槃に入る  
事をご存知のお釈迦さま  
は、いつも付き従って世話  
をしている阿難尊者に自  
身のお葬式について言い  
残されます。

### 阿難尊者

「お釈迦さま、  
あなたがお亡くなりにな  
ったら、お葬式はどうす  
ればよいですか。」

### お釈迦さま

「最高の王  
様が死んだときと同じ形  
で、世界一のお葬式をし  
なさい。」

### 阿難尊者

「残ったお骨  
はどういたしましょう  
か?」

### お釈迦さま

「たくさん  
の人が通る大通りの四辻  
に立派な仏塔を建て、そ  
こに納めよ。そして道行  
く人のだれにも、その仏  
塔を拝ませよ。」

皆さん、驚かれたでしょ  
う。私も、びっくりしまし  
た。

「苦しみを生む原因は執  
着である。だから修行す  
る事によって、すべての  
執着からはなれなさい。」  
と説かれたお釈迦さまで  
す。

きつと、「私のお葬式にか  
ける時間があるのなら、

あなたたちは修行に励み  
なさい。」なんてことをお  
っしゃったに違いないと  
思っていたら、あるること  
か、『世界で一番立派なお  
葬式』をせよ、とは……。

しかし、このお釈迦さまの  
ご遺言には、とても深い意  
味があると佐々木先生は  
言われます。

まず、その頃のインドのお  
布施の考え方をご紹介し  
ます。

インドでは、誰もがお布施  
をしていましたが、それは  
単なるチャリティ(慈善行  
為)ではなかったよう  
です。

また、「善い事をしたなあ」という、自己満足の行為で  
もありません。

では何かというと、当時の  
インドのお布施は、総て自  
分のためにするものだっ  
たのです。

この考え方のキーワード  
となるのが、「業」です。

「業」とは、自身のなし  
た行為による、ポイント  
のようなものです。

善をなすと、善いポイン  
トがゲットでき、その加  
算されたポイントによっ  
て、それ相応の「業」の  
報い(果報)を得ること  
ができます。

しかも、積んだポイントは  
将来、何倍にもなって自分  
の果報として戻ってくる  
のです。ですから、インド  
の人たちにとっての「お布  
施」は、為した分の何倍に  
もなって戻ってくる、最も  
現実的なハイリターン投  
資だったのです。

そして、最も利息の高い投  
資先は、「立派な人」でし  
た。

同じ「お布施」でも、正し  
く生きていく人に施すの  
は、邪悪に生きていく人に  
施した場合の、数万倍、数  
億倍の果報が戻ってくる  
と信じています。(今、現  
在のインドでも信じられ

ているそうです)

お布施は立派な人にこそすべきだと思ひ、それが自分を幸せにするというのですから、お釈迦さまが生きておられた時の仏教信者にとつてのいちばんの投資先は最高に立派な人<sup>11</sup>もちろんお釈迦さまでした。

皆が、次はよいところに生まれ果報を目指して、お釈迦さまに「お布施」をしていました。

ところが、今、お釈迦さまは亡くなります。

お釈迦さまの身になって考えてみましょう。

これまで皆は、将来の果報を望んで私に布施をしていただけども、今私は涅槃に入る。(輪廻を脱し、生まれ変わらない)

今まで私を拜むことや、布施をすることによって果報を願っていた人たちは、私がいなくなるることによって果報を受ける道が断たれてしまう。

だったら、せめて最期にできるだけ多くの人たちに、できるだけの善行を積ませてやりたい……。

つまり、最高のお葬式をするこゝとによって、そのお葬式にかかわった人たちに、最高の果報が戻ってくる機会を遺されたのです。

また、もうひとつのご遺言、「私の骨を壺に入れて、たくさんの人が通る四辻に立派な仏塔を建て、そこに納めよ。」も、同じお釈迦さまのおこころです。

だれでもが通る道々に、遺骨(仏舍利)が納められた高く大きな仏塔を建てることによって、道行く旅人も、あそこにお釈迦さまのお墓があるとわかります。

その人が手を合わす、それだけでも果報が戻ってくる機会を遺すことになります。

お釈迦さまは自己顕示欲から、立派なお葬式をせよ、道々に遺骨を納めた仏塔を建てて皆に拝ませよ、と言われたわけではなかったのです。ご自身が涅槃に入ることによって、人々にどれだけ果報が戻ってくる機会を遺せるか。

そのためにお心をくだかれたの

が、「世界一立派なお葬式にしない」というご遺言です。

■私たちがお葬儀をつとめる意味  
佐々木先生は、「これが仏教のお葬式の本来の意味です。そして

仏教徒である我々もお釈迦さまに習わなければなりません。」と言われます。

もちろん、盛大なお葬式をしたり、仏塔を建てるということではありません。

自分が死ぬことで、のこった人にどれだけのものを遺せるか、仏教でいう、お葬式の大切な意義なのです。

どのようなカタチかは様々でしょう。

臓器提供や献体といった形物理的にのこすということもできるでしょう。

また、「葬儀」という機会自体がのこすものも少なくないと思うのです。

何より、小さな子供にとつて、お葬式はとても大切な時間です。

身内の誰かが亡くなれば、親戚家族は上を下への大騒ぎをします。

お寺さんが来て、葬儀社の人が来て、遠方から親戚がどんどん集まってくる。

死んだおじいちゃんおばあちゃんをの身体を拭き、着替えをし、お仏壇の前に寝かす。もちろん、何一つ自分ではできません。お棺に納める時も、そのお棺を担ぎ出す時にも何人も大人が動きます。

みんな真つ黒な服を着て、普段とはまったく違う場所となり、どんだん大変なことになってくる、しかもそれは一日二日では終わらない。七日目七日目でお寺さんが来て、仏事が執り行われる。

・・・続きは次回・・・

### 楽々亭 7月の予定

7月24日(月)  
西京区役所洛西支所会議室  
午後1時30分～3時30分  
6月に開催した場所です。

### 楽々亭通信

発行元：NPO法人 没イチの会・京都  
住所：京都市西京区大枝北沓掛町一丁目5番地2-406  
TEL：075-874-5320 FAX：075-874-5328  
MAIL：kago@botuichi.com

●楽々亭通信では、皆様の投稿を募集しております。身の回りの出来事や体験談など、何でも結構です。楽しかったこと、つらい想いをしたことなど、様々な胸の内を皆様と共有して行きたいと考えております。